city&life

都市のしくみとくらし

no.83
spring
2007

特集 ジェイン・ジェイコブスの宿題

city&life no.83 spring 2007

表紙・裏表紙―東京都世田谷区下北沢（関連記事p18）
photo:佐藤 真

特集　ジェイン・ジェイコブスの宿題

contents

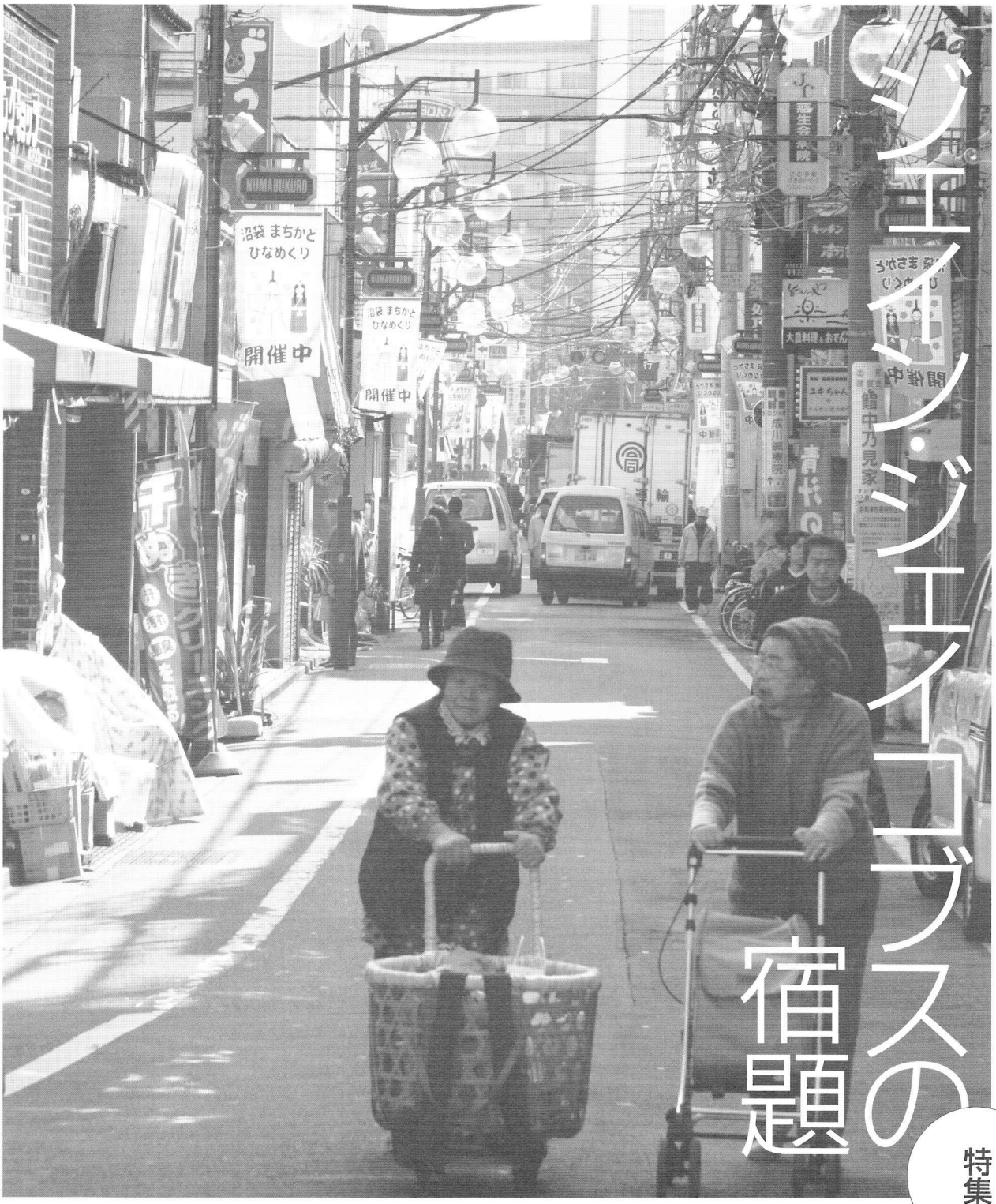
インタビュー｜「なぜ死が最初にきて、生があとにきているのか」 2
宇沢弘文

座談会｜今こそ都市の論理を！ジェイコブスは日本でどう応用できるのか 5
日端康雄×陣内秀信×林 泰義

事例研究｜ジェイコブス的視点から見た東京
計画的につくられた「路地」が支える重層都市｜**中央区銀座**｜岡本哲志 12
自由な気風に包まれた「歩行者の町」として｜**世田谷区下北沢**｜小林正美 18
歴史的連続性が支えるマルチエスニックタウン｜**新宿区大久保**｜稲葉佳子 23
土地に刻まれた「痕跡」から、町の魅力を再発見｜**中野区沼袋**｜佐藤 滋 29

ジェイコブス的「人間都市」としての商店街｜服部圭郎 34

back number・information 40



ジェイン・ジェイコブスの宿題

特集

昨年亡くなった在野の理論家ジェイン・ジェイコブスの都市へのまなざしは、今なお輝き続けている。都市計画のプロパーの中にも、近代都市批判者として、また人間的都市の提唱者としてジェイコブスの思想を受け継ぐ者は少なくない。彼女の代表作『アメリカ大都市の死と生』は、市民主体による都市再生を打ち出した先駆的名著としてますます評価が高くなっている。

都市の理論家という側面をもつ一方で、独自の成長理論によって多くのリスペクトを受ける経済学者でもある。しかし、日本では先駆的経済学者としてのジェイコブスは意外に知られてこなかった。「都市の形成が農村の形成に先行する」というアダム・スミス以来の農業から工業、商業へと発展する独自の経済理論を築きあげたジェイコブス。じつは、彼女の人間的都市、住みやすい都市の理想とは、「経済活動の基本単位は都市である」という強い経済学的理念に裏打ちされた主張でもあったのだ。

「近代都市」を単純で線形的な進歩史観から生まれたものとして一蹴するジェイコブスの批判は、単なる近代都市批判とは違ってずっと射程が広く深い。ジェイコブス再評価の機運が高まっている理由がそこにある。ジェイン・ジェイコブスの思想を今一度整理しながら、ジェイコブスの思想の今日的意味を探る。

photo:**佐藤 真**「東京都中野区沼袋」(関連記事:p29)